

昭和二十一年五月二十一日（一九四六年）日本東京

原田熊吉は次の如く宣誓して申し上げます。

私は昭和十二年（一九三七年）に上海公使館附陸軍武官でありました。同年十一月頃私は特務部長になりその後引續き昭和十四年（一九三九年）三月上旬上海に呉軍院の設立される迄その地位に留つて居りました。それから私は上海呉軍院と支那派遣軍本部との間の連絡將校になりました。

私が特務部長の時、陸軍部より阿片禁示局を設ける事によつて支那人へ阿片を供給する様指示を受けました。私は地方支那政府とその問題を討論し、そこに阿片禁止局は設立されました。特務部も呉軍院も支那政府に何を爲すべきかは命令しませんでした。我々は支那政府に助言したのです。支那政府が特務部若しくは後の呉軍院の助言に不満の時は、我々は支那人とその問題を論じ、大抵の場合その議論は支那人が我々の助言に従つて終幕を告げました。

昭和八年九年十年（一九三三年、三四年、三五年）と私が関東軍本部と滿洲国政府との間の連絡將校として滿洲に居りました時に、阿片組織は極めて好調で效果的でありました。滿洲国政府は関東軍特別参謀により、直接的ではありませんが滿洲国の日本人顧問を通じて助言されて居りました。滿洲国政府は阿片の必要を研究した後、日本の助言を受け入れ、かくして阿片専賣局を設立しました。滿洲の発展の初頭に於ては成果はすべて日本の援助なしには實現され得ませんでした。

9554-2

私原田熊吉は私に對する詰問及び之に對する凡ての返答を含む一頁から成る以上の唐寫を讀み且了解し相違無き事を宣誓の上供過誤します。

證人 原 田 熊 吉

右は一九四六年（昭和二十一年）五月二十一日陸軍省ビル内にて本官の面前にて宣誓の上本供述書に署名せり。

陸軍中尉

ジエームス・エム・マクイウエン

爾、米原トム保（軍籍番號三五、九三一、四一四）は與へられし質問及び返答を英語より日本語に又日本語より英語に忠實且正確に翻譯し、復寫後一頁よりなる前記供述書を證人へ正確に翻譯し、證人は私の面前にて該供述書に署名せる事を宣誓す。

米 原 ト ム 保

右は一九四六年（昭和二十一年）五月二十一日陸軍省ビル内にて本官の面前にて宣誓の上本供述書に署名せり

陸軍中尉

ジエームス・エム・マクイウエン

9565

口 供 書

日本、東京、 S・S

米國陸軍法務中隊、ジエイムズ・エム・マツクイ
ーウエンハ正ニ宣誓ヲ受ケタノヲ決ノ其ク証言シ
且供述スル。

一九四六年（昭和二十一年）五月二十一日 日本
東京ニ於テ私ハ原田熊吉ニ親ノ口前ニ在シタロ
供書ノ宣誓ヲサセタ。コノ口供書ハ刑事訴訟第
九五五回號ノ證ニテアル。

原田將軍ハ彼ノ英文口供書ヲ讀ンダ、サウシテ彼
ガ英語ヲ諺ミ發キスル事ガ出來ルト預ニ通ベタ。
原田將軍ハ事實英文口供書ヲ讀ンダガ、ソレハ米
原氏ニヨツテ其語カラ日本語ニ訳サレタ。何故ナ
ラ宣誓者ガ其口供書ニ於テ其語ヲ知セナイ口供人
トテツテキルカラデアル。

法 務 中 隊

ジエイムズ・エム・マツクイーウエン

一九四六年（昭和二十一年）六月二十一日本官ノ口前ニ在
姓名シ且宣誓シタ。

法 務 少 佐

ジヨン・エフ・ペンメル

4420

A